



清風

南砺市立上平小学校
学校だより
令和2年12月
上平小学校ホームページ
<http://kamitaira-e.el.tym.ed.jp>

つながりの大切さ

教頭 高田 篤志

コロナ禍で様々な苦難に見舞われた2020年が終わろうとしています。

3月からの3か月に及ぶ臨時休業、その間の子供たちの家庭学習に関する対応、学校再開後の子供たちの健康管理や授業の進め方、様々な学校行事の見直し等、誰もが経験したことのない変化の連続の中で、これまで何気なくしてきた生活の一つ一つの意味や大切さについて改めて考えさせられる一年になりました。

特に、タイトルに掲げた「つながりの大切さ」は痛切に感じたことの一つです。感染症予防のため、「3密を避けること」「ソーシャルディスタンスを取ること」が声高に叫ばれ、様々な活動が自粛される中で、人と人との関係性さえも距離を開けてしまいがちになってしまったことはなかったでしょうか。人は声をかけ合い、支え合ってこそ強く生きられる存在であることを、この自粛ムードの息苦しい生活の中で改めて感じる契機になったように思います。

本校の教職員は、つながりを生かし知恵を出し合って、子供たちの健康を守り学習を充実させてきました。毎日の検温や消毒作業等、業務が増えた中でも子供たちに笑顔で声をかけ、机の距離は離しながらも子供たちと話し合いを重ねて学びを深めてきました。子供たち相互も工夫を重ね、実施が危ぶまれた小中高合同運動会や学習発表会を立派に成功させました。これらには当然、今まで以上に子供たちの健康面に留意され、愛情を込めて育ててくださる保護者・地域の皆様のバックアップがあってこそ成し得たことばかりです。

2021年は、丑（うし）年です。丑という字には、発芽直前の曲がった芽が硬い殻を破ろうとする生命のエネルギーが充満している状態を表す意味もあるそうです。来年も教職員一同、エネルギーに教育活動を進めて参ります。今後とも、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



手洗いの仕方を見直すことで感染症の予防を図る

保健主事 竹原 昇

本校では、11月に保健・運動委員会が中心となって「手ピッカピカ大作戦」を行いました。

最初に委員会の児童が、手洗いの重要性や、手洗いチェックのやり方を説明した後、全員が普段どおりに手を洗い、手洗いチェッカーでどこに洗い残しがあるのかを確認しました。児童らは、手洗いチェッカーに手をかざすと、きちんと洗えていない部分が白く光るのを見て、驚きの声を上げていました。

その後、「あわあわ手洗いのうた」の動画を見ながら、音楽に合わせて丁寧な手洗いの方法を練習しました。毎日、給食の前に「あわあわ手洗いのうた」を流し、丁寧な手洗いの定着に努めています。

先月の学校保健委員会で「子供たちが家族に丁寧な手洗いを広めていけるとよい。」という意見がありました。今、コロナの第3波が懸念されています。今後も手洗いの習慣を通して子供たちが率先して感染症予防に取り組んでいけるよう、指導を続けたいと思います。



【手洗いチェッカーに手をかざす子供】



【動画を見ながら手を洗う子供】